

第1問 源流思想分野

▶ 出題のねらい

源流思想分野から予想される問題を出題した。生徒の課題探究、会話文、レポートなどを問題文として、源流思想各分野の総合的理解を求める設問や、知識にかかわらず課題文・文献資料の読解力を問う設問が出題されている。正誤問題、語句組合せ、資料読解、資料比較読解など多様な出題形式に対応できることが大切である。また、基本事項や重要人物を確実に理解し、思想内容、文献資料の読解、テーマに即した思想比較なども押さえておくことが大切である。過去のセンター試験以上に、それぞれの思想を思想家個人のものとしてではなく、多様な観点から捉えてもらいたい。

▶ 解説

問1 1 正解は③。

- ③ アリストテレスは、最高善は幸福であるとし、それは人間としての固有な活動を完成することであると説いた。彼によれば、人間の生活には享樂的生活・政治的生活・観想(テオリア)的生活があり、理性を発揮する観想的生活が最も望ましい生き方である。テオリアは実用性を離れて、真理そのものを探究する精神的態度であり、愛知(フィロソフィア)の精神につながる。
- ① 名家は諸子百家の一つで、言葉の分析に基づいて説得や弁論を行った。後に孟子が詭弁であると批判したことから、ソフィストとの類似性も考えられる。代表的人物には恵施や公孫竜がいる。「道徳的な探究を行い、万人に通じる価値や徳を体得しようとした」が誤り。
- ② 信仰の真理が、「理性で解明される真理とは相反する」が不適当である。トマス・アクィナスは『神学大全』を著し、アリストテレス哲学を応用してスコラ哲学を大成した。彼は理性と信仰を区別しつつも、信仰の真理(恩寵の光)と理性の真理(自然の光)との調和を図った。
- ④ 「理性は人間の感情や欲望を抑制する能力とは本質的に異なる」が不適当である。エピクテトスは古代ローマのストア派の哲学者で、自己の権限外のもの(富・地位・肉体・健康など)と権限内のもの(意志により自由になるもの)とを峻別し、運命の受容と理性による情欲の抑制を説いた。

問2 2 正解は②。

- ② アウグスティヌスは初期キリスト教会最大の教父で、『神の国』や『告白』を著し、キリスト教の教

義を確立した。彼はパウロによって唱えられた三元徳を継承して、キリスト教道徳の根本を形成した。ギリシア的な四元徳(知恵・勇気・節制・正義)の上位に三元徳である信仰・希望・愛があり、その中で、愛が最も大切であるとしている。

- ① 「律法を遵守し、自己を統制することにより徳が得られる」が不適当である。キリスト教はユダヤ教の形式的な律法主義への批判を出発点の一つとしている。アウグスティヌスはパウロが説いた原罪論と贖罪論を継承し、罪に傾かざるを得ない人間の弱さと向き合い、「人はただ神の愛によってのみ救われる」と説いた。神の無償の愛は恩寵と呼ばれ、アウグスティヌスによれば、恩寵は神の意志によりあらかじめ定められ(恩寵予定説)、救いは教会を介して与えられる。このことにより「教会の権威を確立」した。
- ③ 「人間の徳は天によって与えられた超越的なものであるから、各人の修養がおよぶものではない」が不適当である。儒家思想は孔子を祖とし、人間にとって最も重要なものは、個人としても社会に生きる存在としても、「仁」と「礼」であるとした。「仁」はすべての徳の根本であり、自己への誠実さと他者への思いやりで、その根底にあるのは親子や血縁の間にある自然な情愛(孝悌)である。「礼」は、元来は宗教儀礼で、後に社会集団を維持する規範や秩序となったが、孔子は「仁」の具体的な表れとして道徳的な意味を持たせた。儒家では、仁・礼をはじめとする徳には各人の修養が不可欠であるとした。
- ④ 「人知のおよばない神秘的なものである」が不適当である。孔子は、「怪力乱神を語らず」として現実世界を超えたものに関知しなかった。儒家の徳は人格の完成であり、君子の人徳による統治(徳治主義)を説いた。また、孟子は孔子の政治思想を継承し、武力や刑罰ではなく為政者の徳に基づく王道を唱えた。

問3 3 正解は④。

イスラームはムハンマドを開祖とし、7世紀にアラビア半島で成立した宗教で、唯一神を信仰する。神(アッラー)は世界と人間の創造主であり、人間に啓示と戒律を与える絶対神である。その教えは聖典『クルアーン』に記され、そこに示された教えとムハンマドの慣行(スンナ)を基に、9世紀にはシャリーア(イスラーム法)が成立した。宗教的儀礼・戒律のほか道徳、結婚、相続、しつけなどの日常的規範が体系化され、信仰と日常生活が一体化している。

- a 預言者は神の啓示を伝え、人々を導く者で、ユダヤ教、キリスト教でも重要な用語である。イスラームでは、アッラーは各時代に預言者を遣わし、啓示を与えたとし、『聖書』に登場するアダム、アブラハム、ノア、モーセ、イエスも預言者であり、ムハンマドこそが最大最後の預言者であるとする。
- b イスラームではアッラーへの信仰を根本とする。また、神は人間に最後の審判を下し、世界には終末があり、救われる者と裁かれる者がいる。この点はユダヤ教、キリスト教と共通する。アッラーとはアラビア語で神のことで、ユダヤ教のヤハウェ、イエスが父または主と呼んだ神も実は同一であるとする。なお、偶像崇拜はユダヤ教、キリスト教でも禁止され、イスラームでは特に厳しく禁じられている。
- c イスラームの神(アッラー)は「生みもせず、生まれもしない」とされ、イスラームに「神の子」という概念はない。ユダヤ教では救世主(メシア)を「神の子」とし、キリスト教では三位一体の「父、子、聖霊」のうち「子」がイエス・キリストであるとする。

問4 4 正解は③。

資料は道家の莊子の著書『莊子』である。莊子は道家の祖とされる老子の「道(無)」の思想を継承し、万物は上下や優劣のない平等一体(万物斉同)であり、人間のあるべき生き方は天地自然の道にかなない、自己の利欲を捨て、ありのまま生きること(心齋坐忘)であるとした。人為的な価値や分別にこだわらず、悠々と超然として生きる境地(逍遙遊)が理想的境地で、その境地にある人が「真人」である。

- a 「真理は万人に当てはまり、超越的なものに通じる」が入る。Xの考え方は、冒頭の会話文の「万人に通じるものが『真理』」、「個々の人間の力を超えたものだから普遍的」から導き出せる。なお、「真理は一人一人の人生にとって意味があるもの」は実存主義における主体的真理の立場である。
- b 「私心」が入る。資料文の「道は私心によって覆い隠され」から導き出せる。「学問」は資料文中に言及はない。

問5 5 正解は②。

- ② ピュタゴラスは、古代ギリシアの自然哲学者である。自然哲学は前6世紀頃に誕生した哲学で、万物の根源(アルケー)・原理・法則を探究する学問である。人間の精神の働きを神話的思想から合理的思考へと転換させた。代表的哲学者にはタレ

ス、ヘラクレイトス、パルメニデス、デモクリトスなどがある。ピュタゴラスは数学者としても高名であるが、靈魂の不死や輪廻を信じ、宗教教団を形成するなど、その活動は多岐にわたっている。彼は、事物は数の比率、比例関係により形成され、宇宙の真理は数の秩序(ハルモニア)であると説いた。

- ① 「唯一の創造神により秩序づけられた自然と人間が生まれた」が不適当である。ヘシオドスは、前8世紀頃に活躍したと伝えられる人物で、ホメロスとともに古代ギリシア最古の詩人、神話作家とされる。著書『神統記』によれば、宇宙の原初は無秩序な混沌(カオス)の状態であり、そこから大地(ガイア)、天空(ウラノス)、大洋(オケアノス)などの神が登場し、宇宙の秩序(コスモス)が成立した。この作品は神話的世界観の集大成であり、自然哲学の萌芽でもあった。
- ③ 「万物は……神それ自体の表象であると考えられた」が不適当である。唯一神による天地創造というユダヤ教の教えを継承したキリスト教では、汎神論(神即自然)は正統な世界観ではない。なお、「始めに言葉があり、その言葉は神であった」は『ヨハネによる福音書』の冒頭の一文である。
- ④ 「無は人間社会においては理と呼ばれる」が不適当である。老子は道家の祖とされる人物。彼によれば、万物を生み出す根源は人知を超え、言葉で表現できない無であり、仮に名づけて道(タオ)という。人間の本来の在り方は道に従い、ありのままにあるがままに生きること(無為自然)であり、他と争わず何事にも何ものにも逆らわずにしなやかに水のように生きること(柔弱謙下)であるとした。

問6 6 正解は⑥。

中国の朱子学と江戸時代の朱子学との違いについての、生徒と教師の会話である。儒家思想は、孔子の死後、四書・五経などの經典が編纂され、儒教として発展し、經典に基づく体系的学問である儒学が成立した。その代表的なものが12世紀に朱子(朱熹)が確立した朱子学と15～16世紀に王陽明が確立した陽明学である。江戸時代における朱子学は存在論・認識論よりも道德論として展開し、幕府の正学とされ、武士の心得、社会秩序を維持する倫理となった。

- a 「理」が入る。朱子によれば、万物は物質的要素である「氣」と、それを成り立たせる原理である「理」からなる(理氣二元論)。「性」は、「理」が人間の心に内在したものであり、人間の本性は天地自

然の理法(理)に通じるとした(性即理)。

- b 「物の本質の認識が人格の完成につながるということ」が入る。朱子学には「居敬窮理」という語がある。「居敬」とは、感情や欲望を抑制し、言動を慎み、理に従うことであり、「窮理」とは、一つの物の理を窮めることにより万物の理に到達するという修養の方法のことである。「理」は人間にも「性」として存在し(性即理)、外界の事物の「理」を窮めることにより高い人格が実現する。他の選択肢は「物の本質と人としての理想的徳は異なる」は「性即理」とは異なり、会話文の「事物の本質を窮めることから人間の理想的な生き方を導き出した」とも矛盾する。また、「物の本質を窮めると超越者と一体化する」については、「超越者との一体化」は朱子学の思想にはなく、会話文からも読み取れない。

問7 7 正解は①。

資料文はプロティノスの著書からの引用である。プロティノスは3世紀のエジプト出身の哲学者で、新プラトン主義の創始者である。新プラトン主義はプラトン哲学を中心にギリシア哲学を総合し、世界は超越的な「一者(ト・ヘン)」である神から流出し、神に返るという思想である。人間は禁欲により肉体的欲望・物質的束縛から魂を浄化し、善美のアイデアを知り、最後には善美そのものである神と合一する。

- ① プラトンは、現実の世界は変化生滅する感覚的世界(現象界)であり、アイデアの世界が真実であるとした。アイデアは、美や勇気など価値や徳に関わる普遍的な真実在であり、ロゴス(理性)で捉えられる。プロティノスの説明について、「存在の根源はそれ自体で完全な『一』としている」は、資料の「『一』は完全であって、何も求めず何も必要とせず」に当てはまる。
- ② デモクリトスは古代ギリシアの自然哲学者で、万物は分割不可能な無数の原子(アトム)が運動・結合することにより形成されるとし、事物の性質・形状などの多様性は運動・結合の配列・様相の違いにより生じるとした。プロティノスについては、「超越的な『一』を力学的原因としている」は当てはまらない。
- ③ エンペドクレスも自然哲学者で、万物のアルケーは土・水・火・空気であり、四元素の愛(結合)と憎しみ(分離)により万物が創られるとした。プロティノスについては、資料に「『一』は万物の原理であって、万物と同一ではない」とあり、「『一』は神により作られた二次的な存在である」は

誤りである。

- ④ ゼノンはストア派の祖で、エピクロスとともに、ヘレニズム時代を代表する哲学者である。彼によれば、世界(自然)には普遍的原理である理性(世界理性)があり、人間にも理性がそなわり、情欲を抑え、自己の理性を世界理性と一致させることで、正しい生き方ができる(理性的禁欲主義)。プロティノスについては、資料に「『一』を見るものとなったとき、それが理性である」とあり、「『一』は理性では知り得ない」が誤りである。

問8 8 正解は④。

ウパニシャッド哲学は、バラモン教の哲学で、宇宙の根本原理(ブラフマン・梵)と個人の本体(アートマン・我)は一体である(梵我一如)と説き、その境地に達することで、輪廻の苦しみから逃れられる(解脱)とした。仏教では、ウパニシャッド哲学が説く梵・我などの固定的な実体はなく(無我)、すべての存在は原因や条件から生じ、また滅し、相互依存して存在する。この立場は縁起や諸法無我の教えとして説かれ、大乘仏教においては「空」の思想となった。

- ④ ウパニシャッド哲学の記述については、資料1の「ブラフマンはまた我々の本来の自己……それはアートマンである」と合致し、仏教については資料2の「この世においてはすべての存在するものは実体がない」と合致する。
- ① ウパニシャッド哲学の記述「世界の原理であるブラフマンと自己の本体であるアートマンは互いに無関係である」が資料1の「このブラフマンはまた我々の本来の自己……それはアートマンである」と合致しない。仏教の記述の「実体があるとする考えには感覚による認識が前提になる」は資料2の「すべての存在するものは実体がない」と合致しない。
- ② 仏教については、④と同じく正しいが、ウパニシャッド哲学については、①と同じく誤りである。
- ③ ウパニシャッド哲学については④と同じく正しいが、仏教については①と同じく誤りである。

整理 真理探究について

ソクラテス	理性的思索・問答法→徳・価値
プラトン	理性的直観・エロース→イデア
アリストテレス	観想・思慮→存在の原理・徳
キリスト教	福音→救済→信仰・希望・愛
ウパニシャッド	存在の本質→梵我一如→解脱
仏教	智慧・慈悲→四法印・縁起

第2問 日本思想分野

▶ 出題のねらい

「日本における信仰と人生観・世界観」をテーマに出題した。共通テストでは、これまでのセンター試験のねらいに加え、思想の成立と内容・特色を把握することはもちろん、レポートや会話文の読解力、初見資料の読解・推理、他分野と総合した理解力・思考力が問われている。

▶ 解説

問1 9 正解は③。

資料は古代ギリシアの叙事詩人で、ギリシア神話を集大成したホメロスの『イリアス』である。この作品は、ギリシアに古くから伝わるトロイエー伝説(トロイ戦争)を基に、ギリシアの英雄アキレウスとトロイの皇太子ヘクトールの戦闘とその顛末、戦いに当たっての両者の心の動きを中心とした物語である。資料はヘクトールとの戦いに赴くアキレウスが母(女神テティス)に語った言葉で、ヘクトールを倒した者はその3日後に死ぬという神の定めがあっても、生命に代えても守るべき誇りと使命を述べたものである。

日本では、ユダヤ教、キリスト教、イスラームのように、神が唯一の絶対的存在であるという教えはなく、強い力を持つものは善悪・美醜に関わりなく神として祀られ、崇められた。人間にとって、神は畏敬すべき存在で、神に対しては従順で偽りのない心が求められた。また、神は自然現象、自然物など多種多様であり、総称して八百萬神やおよろずのかみと呼ばれた。日本古代においては、自然崇拜が特色で、自然物には神や霊が宿るとされ、特に荘厳で崇高な脅威を抱かせる滝や険しい山などは信仰の対象となった。

- ③ 「神に対して嘘偽りのない心」は古代日本における「清明心(清き明き心)」であり、『古事記』においては、スサノヲがアマテラスに自分には私心のな

いことを述べていることが記されている。清明心の反対語として邪心・濁心・黒心などがある。清明心は、儒学での「誠」、「忠」、「信」や国学での「真心」にも通じ、日本人の道德心の根本となった。また、「自らの意志を貫き、神の定めた運命を受け入れる英雄」は資料に描かれている。

- ① 「神に対して自己を主張することが重んじられた」は古来日本人の精神ではない。
 ② 「神に対して自己を主張することが重んじられ」は古来日本人の精神ではなく、「神の定めた運命に抗う英雄」は資料に示された姿ではない。
 ④ 「神に対して嘘偽りのない心」は古来日本の清明心のことであるが、資料には「神の定めた運命に抗う英雄」は描かれていない。

問2 10 正解は③。

- a 「仏・菩薩・明王などは、すべて大日如來の分身である」が入る。図版資料にある「曼荼羅まんだら」とは、「宇宙の真理を表現したもの」という意味で、密教経典に基づき、宇宙の究極の原理を示す大日如來を中心に諸仏・菩薩・明王が集まる姿を表した図像である。密教では諸仏・菩薩・明王などは大日如來の化身・分身とされる。なお、「仏が永遠の彼方から訪れ、人々を浄土に往生させる」は浄土宗、浄土真宗など浄土教系の仏教に見られる「阿彌陀來迎図」のことである。
 b 「仏の加護により現実の幸福を得ること」が入る。密教は言葉や理論では伝えられない秘密の教えという意味であり、招福・除災・治病・栄利栄達などの現世利益の教えとして、平安時代初期に空海(弘法大師)により広められた。空海は、唐に渡って真言宗(真言密教)を学び、帰国後、高野山に金剛峯寺を開き、日本真言宗を創始した。空海は思想の中心となる「即身成仏」は、現世においてその身が即ち仏となるという意味で、身・口・意の三密の行により宇宙の根本・真理である大日如來と一体化することである。空海の活動は多岐にわたり、儒教の研究にも優れ、書やその他の芸術にも才能を発揮した。また、庶民教育や建築・土木事業も指導した。なお、「学問として仏教の教義を研究する」は奈良仏教の特徴である。

問3 11 正解は⑥。

鎌倉仏教は個人の信仰心により救済や悟りが得られるとする立場をとり、実践を重んじた。道元は曹洞宗を開き、自力で悟りを開くことを求めて、禪に打ち込むこと(參禪)を説いた。

- a — ウ 「末法の世はなく、仏の教えを体得する

ことが大切である」が当てはまる。当時広っていた**末法思想**に対し、道元は末法を否定し、悟りを目指した。末法思想とはブッダの入滅後、世の中は衰退し、正法(教え・修行・悟りがある)、像法(教えと修行がある)を経て末法の世になると、修行も悟りも失われるという下降の歴史観である。日本では平安時代中期から広まり、**源信**の『往生要集』で知られ、宇治平等院鳳凰堂は末法の世に極楽浄土を祈願したものとなっている。

b — **オ** 「自己を捨て去り、ひたすら禅に打ち込むことにより悟りが得られる」が当てはまる。道元はただひたすら禅に打ち込み(**只管打坐**)、身体も精神も一切の執着を離れると(**身心脱落**)、人間にそなわっている**仏性**(仏となる可能性)が実現され、悟りの境地に達するとした。また、坐禅をすること(**修**)により悟りに達する(**証**)のではなく、一心に坐禅することがすでに悟りの境地に入っていることであるとし、そのことを**修証一等**と呼んだ。

ア **親鸞**の**悪人正機**の説明で、親鸞は、救いは阿弥陀仏のはからいによるもの(**絶対他力**)で、阿弥陀仏は自らの力では救われない悪人こそを救うと説いた。

イ 日蓮の教えで、彼は自らを日本第一の「**法華經の行者**」と称し、「**南無妙法蓮華經**」という題目を唱えることで(**唱題**)、『法華經』へ絶対的に帰依することにより個人も国家も救われる(**立正安国**)と説いた。

エ 親鸞あるいは**法然**の教えである。法然は「**南無阿弥陀仏**」と名号をとなえること(**称名念仏**)により誰もが阿弥陀仏に救われ、西方の極楽浄土に往生できると説いた。ひたすら念仏をとなえることを**専修念仏**という。

問4 **12** 正解は②。

a **中江藤樹**が入る。レポートにある「日本における陽明学の祖とされる」、「万物と万人に通じる原理としての『孝』を唱え」から導き出せる。藤樹は朱子学の理念的傾向を批判し、心情的・実践的な教えを説いた。また、儒学を民衆の倫理へと広め、**愛敬**(真心をもって、自己に奢らず他者を侮らない心)を本質とする「**孝**」を重んじた。「孝」は主従・夫婦などの人間関係を成り立たせる徳であり、万物の存在根拠でもある。

b 藤樹の思想であるから「外面的・形式的な礼法にこだわるのではなく、時と場所と身分に応じた道徳を求め、心の在り方と行為の一致」が入る。彼は、「孝」は「**時・処・位**」に応じて実現するべき

ものであるとし、すべての人には善悪を判断する心(**良知**)があるとした(良知を働かせることを「**致良知**」という)。また、「知ること」は「行うこと」の根本であり、「行」は「知」の完成である(**知行合一**)と説いた。

なお、**伊藤仁斎**は、**古学派**の代表的人物で、儒学は孔子と孟子の思想を学ぶべきであるとし、原典研究を重視する**古義学**を提唱した。仁斎は孔子が示した「仁」を「愛」と理解し、その実現には、身分制度を超えて**誠**(自分にも他者にも偽りのない**真実無為の心**)を持つことが大切だと説いた。

整理 日本思想の展開

法然	専修念仏・本願への帰依
親鸞	自然法爾・絶対他力
道元	只管打坐・身心脱落・無我
儒学	敬・誠・孝・愛
国学	高く直き心・真心・惟神の道

問5 **13** 正解は②。

ア 正文。**山崎闇斎**は朱子学と日本古来の神信仰を融合させた**垂加神道**を説いた。闇斎は江戸時代前期の朱子学者で、厳格な修養主義の立場から「敬」(つつしみ)と「義」(正しさ)の徳を説いた。垂加神道は天道と人道との関係性(天人合一説。儒学で展開された)を強調し、天皇崇拝に基づく道徳を説き、幕末期の尊王攘夷思想に影響を与えた。

イ 誤文。**賀茂真淵**は江戸時代中期の**国学者**で、儒学、仏教を外來思想であると否定し、日本人古来の精神を研究して、**古道**を重んじた。古道の本質は『万葉集』の歌に見られる天地自然にかなう素朴で素直、おおらかな男性的気風(「**ますらをぶり**」)であり、そのような雄渾な精神を「**高く直き心**」と呼んだ。「神の子孫である天皇の絶対性と日本民族の優越性を説く復古神道を体系化した」が誤りで、**復古神道**は**平田篤胤**が説いたものである。平田は儒学・仏教の考えをすべて排した古代の神の道を説き、天皇の優越性を主張し、垂加神道とともに尊王攘夷思想に影響を与えた。

問6 **14** 正解は⑤。

写真資料は擬洋風建築の一つで、札幌市にある豊平館である。擬洋風建築とは、幕末期から明治前期にかけて作られた西洋風の建築である。西洋文化の移入に当たり、庶民にも文明開化を感じさせることをねらいとした。

ア ^{にしあまね}西周である。「多くの哲学用語を翻訳するとともに、実証主義や功利主義などを紹介した」から判断できる。西周は明六社のメンバーであり、カント哲学や功利主義を学び、フィロソフィアを哲学と訳すなど、西洋思想の普及に努めた。主観、客観、理性、意識なども彼の訳語である。

イ 福沢諭吉である。「日本のあるべき国家形成は、アジア諸国から離れ、欧米世界の仲間入りをすること」は脱亜論である。福沢は明六社の設立に尽力し、天賦人權論を説いて啓蒙主義を推進し、日本の近代化には個人の独立自尊が不可欠であるとした。また、実学を重視し、功利主義に基づく個人主義・自由主義・合理主義を唱え、のちに官民調和による富国強兵、脱亜論を主張した。

ウ ^{まさなみ}中村正直である。「J.S. ミルの『自由論』を翻訳する」から判断できる。中村は佐藤一斎の下で儒学を学び、幕府の留学生としてイギリスに留学した。帰国後、明六社のメンバーとして功利主義など西洋思想の研究と啓蒙に尽力するとともに、個人主義の道德観を唱えた。また、スマイルズの『Self Help (自助論)』を翻訳した『西国立志編』は当時のベストセラーとなった。

問7 15 正解は①。

第一次世界大戦後、世界各地に民主主義の気運が高まり、日本でも大正期に入ると、自由主義、個人主義、民主主義の運動が盛んになった。この一連の状況を大正デモクラシーという。大正デモクラシーの運動は憲政擁護、普通選挙、女性解放運動、労働運動、農民運動、部落解放運動など多様な展開をとげた。大正デモクラシーの思想家には、民本主義を唱えた吉野作造や天皇機関説を説いた美濃部達吉、全国水平社の「水平社宣言」を起草した西光万吉らがあり、その中であって、平塚らいてうは女性解放運動を推進した代表的活動家である。

① 平塚らいてうは、女性のみの文学者・思想家団体である青鞥社を設立し、その機関紙『青鞥』の創刊号の巻頭に「元始、女性は実に太陽であった」と記した。その後、政治家の市川房枝らとともに新婦人協会を設立し、「新しい女」を掲げた。また、与謝野晶子との間で、母性保護論争を起こした。与謝野は母性偏重を批判し、女性が経済的・精神的自立を果たすことを主張した。それに対し、平塚は前近代的な女性の意識の変革を目指すとともに、母になることは女性が社会的存在となるために必要なことであり、国家政策における母親への福祉の推進を唱えた。

② 社会的・歴史的に作られた性としての「ジェンダー」は1970年代頃から使われるようになった。平塚らいてうが名づけたものではない。SDGs(持続可能な開発目標)の一つにも「ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う」と掲げられている。

③ 与謝野晶子についての説明である。歌集『みだれ髪』の中で官能的・感情的表現を用い、抑圧された人間性を解放する作品を描いた。また、『君死にたまふこと勿れ』では日露戦争を批判した。

④ フランス実存主義の思想家ボーヴォワールについての説明である。ボーヴォワールは『第二の性』を著し、「女性」は生まれながらの存在でなく、社会の中での習俗、慣習、規範などにより人為的に形成されたものであると説いた。

問8 16 正解は④。

亀井勝一郎は昭和を代表する評論家、文学者で、思想・文学・芸術などの研究と教養に基づいた人生論、青春論、幸福論を発表した。主著には『大和古寺風物誌』、『日本人の精神史研究』などがある。

④ 資料で述べられるテーマは「邂逅^{かいこう}」で、邂逅とは自分の人生を人生たらしめる出会いである。出会いにより結ばれた友情に人生の人生たる証があり、そこに謝念が生まれ、「人生における謝念とは邂逅の歓喜」である。貧苦病身災難にあらうとも、「邂逅の歓喜あるところに人生の幸福がある」と著者は記している。

① 「自分が生きていることの証を広大な歴史の中に成果として実現すること」が不適當である。

② 「人生の人生たる証は貧苦病身災難を克服させてくれた人との出会いにある」が不適當である。

③ 「人生においてはあらゆる人との出会いの中にその歓喜が内包されている」が不適當である。

第3問 西洋近現代思想分野

▶ 出題のねらい

今回は、西洋近現代思想の分野の中で頻出、並びに重要な思想家を出題した。それぞれの時代や思想分野ごとに関連する用語や人物を確認し、本番に向けた実践力をつけてほしい。また、共通テストでは現代の思想家の文章と近現代の思想家を関連させる出題もあり得るので、留意してもらいたい。

▶ 解説

問1 17 正解は②。

- ② 誤文。マキャベリは、著書『君主論』の中で国家の安全・安定や君主の権力維持のためであれば、当時の道徳観に反する行為であっても正当化されるとし、こうした手段を必要に応じて選ぶべきと説いた。不必要に選択すべきではない点で、この選択肢が正しくないことが分かる。
- ①③④ 正文。非道徳的な手段が正当化されるのは、国家の安全や君主の権力維持など、政治的な目的に限られる。国家の安全が失われれば、国民も不幸になることから、君主は自由意志でこうした手段もとらなければならないとマキャベリは説いている。

問2 18 正解は④。

- ④ ク・セ・ジュ(私は何を知るか)は、モラリストとして知られるフランスの思想家モンテーニュの言葉。ユグノー戦争という当時の国内の宗教対立を背景に、どちらか一方に正しさがあるのではなく、自己の信じる正しさを今一度吟味することで独善に陥ることを避けられると説いた。
- ① 選択肢の説明はイギリスのベーコンの「知は力なり」である。観察や実験に基づく確かな自然科学の知識は、人間生活を豊かなものにするというイギリス経験論の理性に対する信頼を示す言葉である。ベーコンは経験論の祖であり、帰納法を提起して科学的思考を哲学的に確立した。「知は力なり」は、正確には「人間の知識は人間の力に一致する」であり、力を持つためには自然の原理、法則や知識が必要であるという意味である。また、「自然は服従することによってでなければ征服されない」と述べ、自然を征服するためには自然法則に従わなければならないと説いた。主著は『ノヴム・オルガヌム』。
- ② 選択肢の説明はイタリアのヒューマニストであるピコ・デラ・ミランドラの演説原稿『人間の尊厳について』の中で語られている、人間はなりたいたものになることができるというルネサンスの自由意志の肯定を示す言葉である。
- ③ 選択肢の説明はイタリアのガリレイらをはじめとする近代科学精神の立場を示す言葉。ガリレイやコペルニクスらの地動説は、観察に基づき、数学的な裏づけを基に主張された。

問3 19 正解は②。

- ② デカルトは、理性の判断を重視した大陸合理論に属するフランスの思想家。彼は理性を良識(ボ

ン・サンス)と呼び、あらゆる人に平等にそなわると考えた。文章は著書『方法序説』からの一節である。選択肢は、現実の社会では「考察する対象が異なれば、理性が導く思考も異なる」ということを示している。なお、デカルトは他のものに依存せず、それ自体で存在するものを「実体」と呼んだ。デカルトによれば、実体には精神と物体があり、精神の属性は思考(思惟)で、物体の属性は延長(空間的広がりを持つこと)である。この立場を物心二元論という。また、人間も身体と精神を有しているから、人間に関しては心身二元論という。精神を失った身体は物体にすぎず、臓器移植の根底にはデカルトの思想があるとする見方もある。また、物体を実体とする立場は機械論的自然観を生み出す原点になった。

- ① デカルトの立場によれば、共通のデータに基づいて理性的に考察すれば、共通の結論に至るはずである。
- ③ デカルトは、真と偽を区別する能力がすべての人に生まれつき平等にそなわっていると説いている。したがって、「真と偽を区別することができない」としている点が誤り。
- ④ 環境問題・人口問題・都市と地方の経済格差などの社会問題・地球的課題の解決が困難なのは、それぞれの当事者が同一の過程で思考することが困難であることが原因であり、同一のことを考察するからではない。

問4 20 正解は⑥。

- ウ(人間の本质としての快樂)→イ(個人の快樂と社会全体の幸福)→ア(社会にとって望ましくない快樂に対する制裁)の順になる。
- ウ 人間は快樂を求め、苦痛を避ける存在であると捉えている。
- イ 個々人の快樂の総和が社会全体の幸福であるためには、個人の快樂追求が前提になければならない。
- ア 制裁が必要となるのは、基本的に個人の快樂追求が自由なことによって、他者の快樂追求と衝突する場合があるためである。
- ベンサムは、イギリスの功利主義の思想家。人間を自由に快樂を追求する存在と考え、こうした自由は、「四つの制裁(自然的、道徳的、法律的、宗教的)」によって制約されると考えた。「最大多数の最大幸福」の言葉で知られ、快樂を計量可能なものとして快樂計算を説き、社会の快樂の総量が最も大きくなる行動が正しい行動であると説いた。

問5 21 正解は③。

ア 誤。文章はデカルトの演繹法について書かれたもの。プラグマティズムは、イギリスの経験論・功利主義にアメリカのフロンティア・スピリットなどが融合して生まれた思想である。

イ 正。ジェームズは、著書『プラグマティズム』の中で真理の有用性について「有用であるから真理」と、それまでの「真理」観とは対極の思想を説いた。プラグマティズムの思想については、デューイの道具主義についても復習しておきたい。

問6 22 正解は⑤。

カントとヘーゲルはドイツ観念論の思想家である。ドイツ観念論は、カントの批判哲学を基に、フィヒテ、シェリング、ヘーゲルなどにより形成された。カントは近代哲学における理性中心主義を再考し、経験論と合理論を統合して人間の理性能力を吟味した。

a カントが当てはまる。カントは『純粋理性批判』で「理論理性(認識論)」の認識能力を考察し、認識の仕組みと範囲を論じた。次に、『実践理性批判』で「実践理性」を論じ、普遍的な道徳法則を説き、その道徳法則に従う自律を真の自由とした。自他の「人格」を常に目的として見ることを説く彼の道徳哲学からは、永久平和論が生まれた(『永久平和のために』)。なお、フィヒテは人間の主観性を強調し、対象を認識する自我もまた認識の対象となることから絶対的自我の思想を説いた。

b 世界精神が当てはまる。ヘーゲルは、世界の本質は精神であり、究極の精神である絶対精神の目的は万人の自由の実現であるとする。絶対精神は、歴史においては世界精神となり、ナポレオンなど特定の人物や民族の動きを活用して(理性の狡知)、それぞれの時代に自由を実現したとされる。高邁の精神は、デカルトの用語で、自らの意志で情念を支配する気高い精神のことである。また繊細の精神はパスカルの用語で、人間の心の動きを直感する精神であり、これに対して数学や物理学などのように証明・検証などを行う、科学的、合理的な働きを幾何学的精神という。

問7 23 正解は③。

ヤスパーズは、ドイツの実存主義の哲学者。キルケゴールやニーチェの思想を継承し、心理学、社会学、東洋思想などを広く学び、世界大戦により失われた人間性の回復を求めた。彼は人間存在を凝視し、「死、苦悩、争い、罪責」など、個人の努力では乗り越えられない限界状況に囲まれている

とした。ヤスパーズによれば、人間は限界状況に直面した時に、自己の有限性や無力さを自覚する。そこで、自己と自己を取り巻く状況もすべて包み込む超越者(包括者)と出会う。彼は、その出会いを通じて本来的な自己の在り方(実存)に目覚めると説いた。

イ 「それであるものになるように私に働きかける」とは、自分が望む自分を作り上げようとする、自分自身の要求である点を文章から読み取ることができる。

ウ 「私は己の自由において私自身である」というのは、自己をどのように作り上げることも可能である、という点が自己自身である(ほかの誰でもない)ことの最大の特徴であることを示している。

問8 24 正解は①。

① 「数学の法則に従って」、「適切な手順に従って処理」という会話文が手掛かりとなる。理性的であるとは、筋道を立てて考えることができることである。

② 問題点を正しく認識することが計算することではない。

③ 手段の善悪について考えることは、会話文の趣旨と合致していない。

④ 社会をより良く変えるためにという前提で理性の在り方について論じていることから、変える必要があるかどうかを判断するのは会話文と合致しない。

整理 西洋近現代・理性に関する思想

思想家	主な著書	キーワード等
ベーコン	『ノヴム・オルガヌム』	知は力、帰納法、イドラの除去
デカルト	『方法序説』	良識(bon sens)、我思う故に我在り、演繹法
パスカル	『パンセ』	考える葦、中間者
カント	『純粋理性批判』、 『実践理性批判』、 『判断力批判』	理性批判、理論理性、認識、実践理性、格率、意志の自律、動機主義、目的の国
ヘーゲル	『精神現象学』、 『法の哲学』	精神、弁証法、絶対精神、「理性的なもののこそ現実的であり、現実的なもののこそ理性的」、人倫
デューイ	『哲学の改造』、 『学校と社会』	道具主義、創造的知性
コント	『実証哲学講義』	実証主義
スベンサー	『総合哲学体系』	社会進化論

第4問

青年期・現代社会分野

▶ 出題のねらい

TVドキュメンタリーに対する感想についての高校生同士の会話を題材として、青年期と現代社会分野から出題した。

共通テストの第4問は今までのセンター試験の流れを汲む問題と、それとは異なるアプローチが求められている問題とが混在している。根本的には倫理のみならず現代社会および政治経済、芸術等の他教科・科目の知識とそれに関わりの深い学習事項の知識が必要とされ、さらにそれを「総合的に」活用できる能力を問うという点では、従来のセンター試験の延長上にあるといえる。「総合的に」とは、古今東西の思想家の思想をはじめとした授業内容と現在の社会情勢や諸問題、身の回りの出来事・状況とをリンクさせて論理を構成することである。

このことを肝に銘じ、模擬試験や過去問の正解以外の選択肢についても解説や資料集・用語集等を駆使して復習しておきたい。模試の活用とは「間違った問題とどう向き合うか」、それはまさしく「今の自分とどう向き合うか」なのである。

▶ 解説

問1 25 正解は①。

自然との関わりに関する思想家の思想についての問題である。それぞれの思想家の思想についての概要を「自分の言葉」に置き換えて説明ができるように理解しておこう。

- ① カーソンはアメリカの海洋生物学者。主著『沈黙の春』でDDTをはじめとした殺虫剤等の化学物質による生態系の破壊に警鐘を鳴らした。また、自然の不思議さに驚異の念を抱く感性の大切さを説き、その感性が自然との共生を実現するとした。
- ② レオポルドは人間による自然の利用自体は否定していない。レオポルドはアメリカの環境学者。『土地倫理』を著し、人為的自然保護ではなく、自然そのものの相互依存性(自然中心主義)から生態系の維持・保存を主張した。
- ③ ハーディンが提唱したのは「共有地の悲劇」である。ハーディンはアメリカの生物学者で、この言葉は、何の基準も設けず、各自が自由に資源を利用・消費してしまうとすべての資源が枯渇してしまい、結果的に資源を持続的に利用することができなくなってしまうことを意味している。同様に、各人が自由に出産できるとすると、世界は有限な人口しか養えない以上、いずれ資源は枯渇し、破

滅の結果に至る。そこで、ハーディンは、人口問題については自由制限という道徳的方法で解決すべきであると説いた。彼は、人口抑制問題にはアダム・スミスの「見えざる手」もベンサム「最大多数の最大幸福」も適用できないとしている。

- ④ ヨナスの「世代間倫理」については「将来の世代は現在の世代に」ではなく、「現在の世代は将来の世代に」が正しい。ハンス・ヨナスはドイツの哲学者で、ハイデガーに師事したが、師がナチスに傾倒すると離反した。彼は、環境問題について、現在世代は未来世代に責任があるとし、目的論的自然観の立場から、目的の実現が善であり、自然の破壊は目的に反していると主張した。

問2 26 正解は④。

ア レヴィンの「マージナル・マン(境界人)」についての説明である。レヴィンはドイツ出身、アメリカで活躍した心理学者で、青年期を大人と子どもの中間期として位置づけた。また、彼は葛藤(コンフリクト)を分類したことで知られる。ハヴィガーストはアメリカの教育学者、心理学者。青年期の発達課題として「同年齢の男女との洗練された関係」などを挙げた。

イ ホリングワースは、アメリカの心理学者で、青年期における親からの精神的自立を、「離乳」が乳児期から幼児期へと成長する現象であることになぞらえて、「心理的離乳」と呼んだ。シュブランガーはドイツの哲学者、心理学者。追求する価値に基づいて人間を「理論型」、「経済型」、「審美型」、「社会型」、「権力型」、「宗教型」という6つの類型に分類した。

問3 27 正解は①。

ベルンシュタインはドイツの社会主義者。彼はマルクス主義を修正し、唯物史観と社会主義革命、プロレタリア独裁を否定し、資本主義の問題点を議会制民主主義による合法的措置によって漸進的に改善すべきであると主張した。

ア 正文。ベルンシュタインはマルクスの唯物史観を否定している。

イ 正文。ベルンシュタインは暴力革命および一党独裁を否定し、議会制民主主義の制度によって漸進的に改革を進めるべきであるとした。ベルンシュタインの思想は社会民主主義と呼ばれ、イギリスのフェビアン主義とともに修正マルクス主義を展開した。

ウ 誤文。オーウェンの思想である。オーウェンは人道主義の見地から資本家として労働者の待遇と

労働環境の改善を意図し、アメリカでニューハーモニー村の建設に取り組むが、失敗する。なお、マルクスは、彼の立場を資本主義についての科学的分析に欠け、単なる人道主義の見地からの社会主義であるとし、これを**空想的(ユートピア)社会主義**と呼んで批判した。

整理 社会主義の思想

人物	理念	実践
オーウェン	労働条件、環境の改善による社会改良	「ニューハーモニー村」の建設
サン・シモン	産業者(資本家・商人・銀行家・労働者)が支配する産業社会	
フーリエ	協同組合的組織体により生産・分配・消費を共同で行う共産的共同社会	「ファランジュ」の建設
マルクス、エンゲルス	プロレタリア階級による共産主義社会の樹立	『資本論』、「第1インターナショナル」の結成
レーニン	「プロレタリア独裁」体制の構築	ロシア革命(十月革命)の実行とソビエト社会主義共和国連邦樹立
毛沢東	新民主主義	中華人民共和国樹立
ウェット夫妻	議会活動を通して社会主義的政策を漸進的に実現	フェビアン協会の実質的リーダー、「ナショナル・ミニマム」の提唱
ベルンシュタイン	修正主義(民主主義の実践を通して社会主義の理念を実現)	修正主義論争を展開

問4 28 正解は③。

マズローの**欲求階層(段階)説**についての問題である。マズローは、**生理的欲求**、**安全の欲求**、**所属と愛情の欲求**、**承認の欲求**の4つの**欠乏欲求**が満たされてはじめて、**自己実現の欲求**が現れるとした。この自己実現の欲求によって人間は成長することから、欠乏欲求に対して**成長欲求**と呼ばれている。

- a マズローは、人間の欲求は基礎的なものが満たされてからより高次の欲求が発生してくると説いた。
- b 生理的欲求から承認の欲求までは「満たされていない」から「満たしたい」という「欠乏欲求」であるのに対し、「自己実現の欲求」は現状を超えてより自らを高めたいという「成長欲求」である。

問5 29 正解は②。

ピーター・シンガーの「**動物の権利**」の実例についての問題である。彼は功利主義の立場に立ちつつ、痛覚を持つ動物の利益も平等に配慮すべきであると訴えた。

- ② 誤文。「動物の権利」は、知能の有無ではなく、苦しみを感ずるかどうかが問題とする。イギリス功利主義の伝統に沿って、苦しみを感ずる対象に苦しみを与えるべきではない、とする思想である。
- ① 正文。シンガーは、工場畜産や肉中心の食生活を動物に不要な苦痛を与えるものとして批判した。
- ③ 正文。シンガーは、動物実験は動物に不要な苦痛を与えるものとして批判した。
- ④ 正文。人間のために使役されている動物を早めに引退させて余生を充実させるというのは、痛覚を持つ動物の利益も平等に配慮すべきというシンガーの意見に合致する。

問6 30 正解は④。

男女共同参画週間の数年分のキャッチフレーズを見た高校生PとQの会話についての文章穴埋め問題である。大冒頭の会話文の内容を踏まえつつ、この問題の会話も踏まえて最適解を導き出すことが必要である。

- a 「これからの社会にとっての正義を真剣に考えなければならない」という趣旨は、冒頭の会話文中のQの最後の発言に該当する。「社会の仕組みを無視した主張に意味はない」という主張も冒頭の会話文中のQの発言にあるが、キャッチフレーズの趣旨にはそぐわない。「社会の仕組みを変えない限り歴史は繰り返すだけである」や「それぞれの立場のエゴを振りかざすだけでは状況は解決しない」は、Pの立場である。
- b 「男女共同参画」とは権利上の平等にとどまらず、社会の仕組みや慣行、文化などのあらゆる面に存在する性差別や不平等をなくして男女が対等に社会を作る主体となることである。「男女は一体となって、ともに社会を支えるべき」、「男女が対等な立場で、ともに社会を支えるべき」は、どちらもこの趣旨に合致する。「男女はそれぞれの特性に応じた役割を社会で果たすべき」、「男女はそれぞれの役割に則って社会を支えるべき」は、性別役割分担を認める考え方であり、キャッチフレーズの趣旨に合致しない。

よって、適当なものの組合せは④である。

問7 31 正解は④。

結果の説明から、数値が1.00に近いほど正の

相関, -1.00 に近いほど負の相関が高く, 両者を合わせて有意な相関としていることが分かる。

- a 安定性と両価性の交点の数値は -0.30 であり, **負の相関**, すなわちどちらかが高ければどちらかは低いという関係があることが分かる。
- b・c・d 愛着性の数値を見ると, **安定性**(0.22) $>$ **両価性**(-0.04) $>$ **回避性**(-0.30) の順になっており, この順で正の相関が高いことが分かる。

問 8 (1) 32 正解は②。

ロールズの「正義」をきっかけとした現代思想についての会話文中四択問題である。この形式は共通テストから導入された形ではあるが, 選択肢文は短く簡潔なものになっており, 以前に比べかえって解きやすくなっているかもしれない。ロールズの思想がその後の政治思想に様々な影響を与えているという「思想の横糸」(流れ)を理解しておくことが肝要である。

- ② 誤文。ノージックの「リバタリアニズム」はロックの所有権論の影響を受け, 労働の成果はすべてその本人のものとなるべきであると主張した。
- ① 正文。センの理論はロールズへの批判から始まっており, ロールズも『正義論』の改訂版の中で「有意義な指摘を頂いた」と言及している。
- ③ 正文。コミュニタリアニズムの思想家サンデルもロールズ批判から出発し, 「負荷なき自己などあり得ない」と主張している。
- ④ 正文。ギリガンはその主著『もうひとつの声』で具体的なニーズを持つ他者への応答責任を説く「ケアの倫理」を提唱した人物である。

(2) 33 正解は①。

高校生 P がロールズの文章を読んで書いたレポートの文章穴埋め問題である。問 6 同様, 大問冒頭の会話文の内容を踏まえつつ, ロールズの文章も踏まえて最適解を導き出す必要がある。

P は, 会話当初は, 環境問題は待ったなしで社会の仕組みにかかわらず対策を打つべきとの考えだったが, Q の発言によって伝統について言及している。これより, a にはア, b にはイを入れるのが妥当と考えられる。そうすると c にはロールズの第 1 原理を受けたウを入れるのが妥当である。

写真協力／曼荼羅：ユニフォトプレス, 豊平館(2016)：ユニフォトプレス